



耳よりな話

N.39

平成 24 年 11 月 21 日発行

(労働・社会保険ニュース)

阿部年金労務管理研究所

阿部 純二 (社会保険労務士)

〒194-0045 東京都町田市南成瀬 5-25-14

Tel 090-1200-1526 Fax 042-722-1526

E-mail: abenenkin@ybb.ne.jp

<http://nenkinsodan.web.fc2.com/>

年金相談の事例

前号「耳よりな話」N.38 にて、受給資格期間が 25 年に満たないため年金がもらえない人を救済するための国民年金保険料後納制度ができたことを紹介しました。ただし、過去 10 年分を納付すれば誰でも年金を受給できる訳ではありません。

以下相談のあった事例をご紹介します。

[事例] : 相談者 男性 昭和 22 年 12 月生まれ (この 12 月に 65 歳になる)

(相談内容) 過去 3 回の転職経験があり、厚生年金に通算 162 ヶ月加入しただけで、それ以外に国民年金保険料を全く納付していない。日本年金機構から「国民年金保険料の納付期間延長のお知らせ」が届いたため、国民年金保険料後納制度を利用して年金を受給できるかどうか。

(回答) 平成 14 年 10 月から 60 歳になる平成 19 年 11 月までの 62 ヶ月を後納することができます。しかし、過去の加入期間 162 ヶ月に後納 62 ヶ月を足しても 225 ヶ月にしかならず、受給資格期間に必要な 300 月 (25 年) を満たさないため、後納しても年金は受給できません。

*注... 今回の国民年金保険料後納制度は 20 歳以上 ~ 60 歳未満の保険料を納付すべき期間に未納、未加入がある人が平成 14 年 10 月以降の期間分を後納できると言うのが主たるものです。

それではどうする :

厚生年金加入の 162 ヶ月以外に、不足の 75 ヶ月分に相当する他の加入履歴、カラ期間はないか再調査をする・・・かなり難しい様子

「耳よりな話」N.38 にてご紹介した、受給資格期間 10 年の法律施行を待つ。(平成 27 年度施行予定の消費税引上げ法に伴う)

以上の状況のようにこの相談者の場合、今まで厚生年金を 162 ヶ月納付したのが無駄になってしまいかねません。

しかし、最後に相談者が「自分の子供たちにはこの失敗事例を話し、どんなことがあっても国民年金保険料を納付させるようにします」と言っていたことがせめてもの救いでした。

【おことわり】

「耳よりな話」にてお知らせする年金等の内容につきましては、平易な文言にてその骨子を説明することを心掛けております。従いまして、法令条文通りの厳密な解釈や例外規定の適用に拠っては該当しない人もいます。その旨をご理解頂きますよう、更に詳細が必要な方は別途お問い合わせください。

* 既発行の「耳よりな話」は <http://nenkinsodan.web.fc2.com/> をご覧ください。



時代劇のなかで「下に一、下に一、」と大名行列のとき、庶民が道端に座り土下座する場面があります。しかし実際には普通の大名行列に出会った場合、一般庶民が土下座することはありませんでした。その証拠に歌川広重の浮世絵「東海道五十三次・日本橋」には大名行列が描かれていますが、一般庶民は土下座せずに橋の上を普通に往来しています。

実際は將軍家（宗家）、御三家、御三卿が行列する時だけ土下座させられました（將軍の姫で嫁入りした娘が外出の行列の場合はそれに準じていました）。

特に將軍が日光東照宮、上野寛永寺、芝増上寺への参詣の時や、他の大名、家臣の家を訪問する「御成り」の時、鷹狩りの時などは大変でした。行列の間、家の中から外に出ることはもちろん、火を使うことも禁じられ、家は全て目張りをしなければなりませんでした。（「トッピンシャン」は將軍献上のお茶壺行列から生まれた言葉）

一般大名の行列が將軍家（宗家）、御三家、御三卿の行列とすれ違う時は、一般大名は駕籠や馬から降り平伏しなければなりませんでした。

このため、一般大名は前方に偵察者を出し、すれ違いそうな場合は迂回したようです。

こうしたことは全て徳川家の権威を高め、將軍家（宗家）、御三家、御三卿に一般大名を臣従させることを目的にしたものでした。

ところが將軍家の威光に陰りが始めた幕末、14代將軍家茂が長州征伐のために上洛したときは、逆に約4千人の中軍とその華やかな行列を見せることにより庶民に公儀の権威をアピールしました。

このとき、多くの外国人が行列を見てその華麗さに感嘆した記録が残っています。特にトロイ遺跡発見者で世界的に有名なハインリッヒ・シュリーマンは偶然にも、14代將軍家茂上洛時の騎馬姿を目撃し、「將軍は蹄鉄の代わりに麦藁を付けた立派な栗毛色の馬に乗り、金の

刺繍が施された白地の陣羽織を着、黄金箔の漆塗りの陣笠を被っていた。將軍は20歳ぐらいで、多少色黒だが端正な顔立ちであった。その周りは、同じく白地の陣羽織を着用した20人ほどの騎馬の武士が固めていた（影武者と思われる）」とあります。

余談ながらシュリーマンのような有名人が日本を訪問していたことも驚きですが、一行は支那を経由して来日しており、日本滞在中に日本人の誠実さ、清潔さに感嘆した記述が多く残されています。

その後も、江戸近郊でたびたび行われた軍事演習の時などにも將軍の権威を見せるために公開したようです。



第一生命が毎年「サラリ - マン川柳コンクール」を発表しています。

傑作をご披露します。

（本件は第一生命様から転載の承認を得ております）

第十七回第一生命サラリマン川柳コンクールより

『前向きで』 駐車場にも 励まされ	プラス思考
何故言わぬ 言つと任事が 倍になる	無我夢中
飲み放題 気がつきゃタクシー 一万円	飲み介
「飯いる。」 「いる」の返事で 妻不機嫌	耐える夫
家計難 やりくり上手か 肥える妻	すっちゃん